平成25年度 ユネスコエコパーク関連先行事業の実施報告!!

現在、只見町は人間社会と自然環境の共生を実現するモデル地域であるユネスコエコパーク（ユネスコ MAB 計画の生物圏保存地域）という国際的な制度を活用し、町づくりに取り組んでいます。その町づくりの方向性とは、この地域の豊かで貴重な自然環境・生物多様性を保護・保全し、次世代へと引き継いでいくとともに、そこで育まれた資源を持続可能な形（現代世代が、将来世代の欲求や利益を損なわない形）で利活用することにより地域の社会経済的な発展を目指すものです。これを実現するため、登録前から先行してユネスコエコパーク関連事業を実施しています。この関連事業は、ユネスコエコパークの３つの目標である①自然環境・生物多様性の保護・保全、②資源を持続可能な形で利活用した地域の社会経済的な発展（産業振興）、③学術調査研究、人材育成に沿った内容となっています。ここに平成２５年度に実施した関連事業を報告します。

なお、只見町のユネスコエコパークへの取り組みは、登録による財源や観光客の増加など棚ボタ式なものを期待するものではありません。人と自然との共生を目指すユネスコエコパークの理念に則り、この地域の自然環境とそれらを拠り所とした伝統的な生活、文化、産業、歴史を活かした町づくりを地道に着実に計画、実施していくことで只見町のブランド化を図り、地域活性化につなげることが狙いです。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

①自然環境・生物多様性の保護・保全

■自然観察指導員の育成講座（平成 25 年 7 月 13 日、14日）

公益財団法人日本自然保護協会と只見町の共催で、自然観察会の開催などを通して自然保護教育を実践者する「自然観察指導員」を養成する講習会を開催しました。当日は、町外から２１名、町内から１０名が参加しました。受講者には、自然環境を理解するための自然観察会の実施や自然保護の考え方を町内に広めてもらうことが期待されます。

▲「森林の分校ふざわ」での講習会

■ただみ観察の森の整備

只見町の豊かで貴重な自然環境を町内外の方により身近に気軽に接してもらうため、車道からアクセスしやすく、町の特徴的な森林を「ただみ観察の森」として指定、整備しました。指定に際しては、区の協力をいただいて歩道の整備を行い、現在 6 つの森が指定されています。

▲下福井区のブナ林の歩道整備

■その他：巨樹・巨木の保全

（黒沢区薪平および旅行村のコナラあがりこ林に対するナラ枯れ防除）

②資源を持続可能な形で利活用した地域の社会経済的な発展（産業振興）

■只見町公認自然ガイドの更新・新規認定（平成２５年８月31日、９月１日）

エコツーリズムは、地域の自然環境やそれを拠り所にした生活・文化・歴史など、地域固有の魅力を来訪者に伝えることにより、その価値や大切さの理解を促し、保全につなげていく仕組みです。これを推進する只見町公認自然ガイドの認定更新及び新規認定のため、新潟大学准教授の本間航介氏を講師とした研修を 2 日間に渡り実施し、16 名のガイドが認定されました。

▲ユビソヤナギ林での現地研修

■「自然首都・只見」伝承産品ブランド化補助金

只見町の天然資源や農産物資源を原料に、伝統技術を使って加工した産品の技術継承、開発、販売に取り組む事業者に対して、技術伝承、品質の向上、パッケージの作成を支援する事業を実施しました。今年度は、山採り乾燥ぜんまい、凍み餅、ニホンミツバチの蜂蜜、たぐり飴、つる細工、木工品等に取り組む事業者に対して助成しました。「自然首都・只見」のブランド化と地場産業の育成・発展が期待されます。

▲乾燥ぜんまい、わらび、うるい

■その他：森林認証制度による森林づくり（広報ただみ：２０１４年２月号掲載）

③学術調査研究・人材育成

■在来イワナ生息地調査

絶滅の危惧に瀕している只見町の在来イワナ（ニッコウイワナ）の保護・保全を図るため、町内の河川について、生息状況を委託調査しました。数河川で、在来イワナの生息が確認されています。

▲保護・保全が求められるニッコウイワナ

■ユネスコスクール登録への支援

町内各教育機関は、世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を共有し、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すことを目的とするユネスコスクールへの登録を目指しています。そうした活動を支援するため、町内小中学校へ国内ユネスコエコパークの関連図書を提供しました。

▲朝日小学校での引き渡し式

■その他：「自然首都・只見」学術調査助成金事業（広報ただみ：２０１４年２月号掲載）